



「PLAN-PROC®」は、ビジネスモデリングのための業務プロセスを可視化する技法です。椿正明博士(データ総研)により開発されたプロセスモデル『IPF(Information Process Flow)チャート』の技法(表記ルールおよび作成手順)をマニュアル化しています。

### 個人差の出ない業務フロー図

プロセスという言葉からイメージする内容は、人によってさまざまです。また、業務フローの技法も数多くあります。

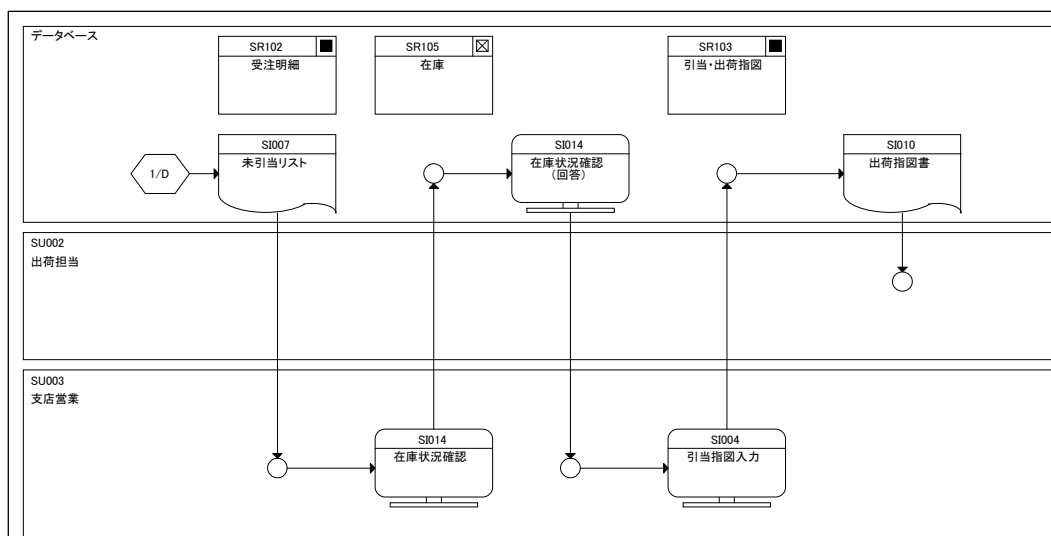
したがって、その図は細かな記述であったり、粗い記述であったり、あるいはユーザ作業中心の記述であったり、システム処理の記述中心であったり、作成者の主観で個人差が出てしまいます。

PLAN-PROC®で記述する『IPFチャート』は、コンピュータ業務と人間系業務の両方を対象とし、業務全体を入出力(画面・帳票)を中心とした、組織間の情報の流れを記述します。1業務の定義が明確であるため、誰もが同じレベルで記述することが可能です。

### PLAN-PROC®の特徴

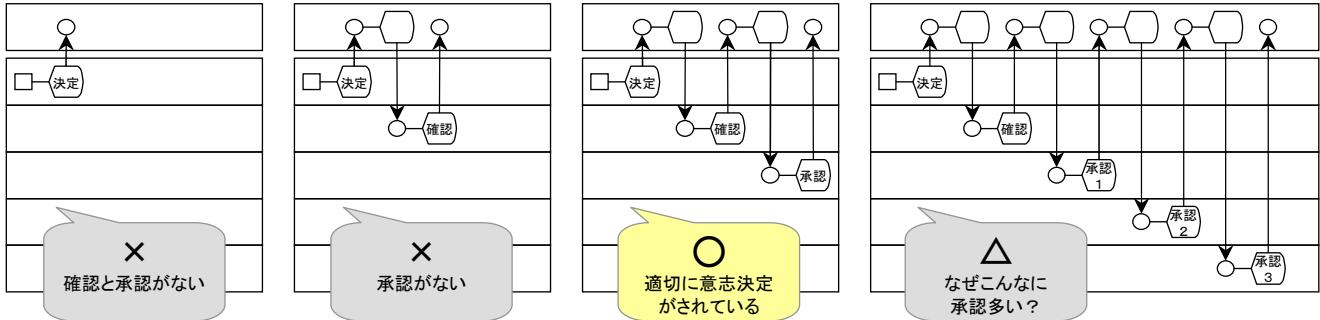
論理組織間を流通する入出力を中心に記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報システムにおける業務プロセスとは、人と人、あるいは、人とシステム間の情報のやりとり</li> <li>● 情報とは、データから生成される入出力(画面・帳票)である</li> </ul>
更新プロセスとデータとの関連を明示	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データとプロセスの関連および整合性をプロセスモデル上で確認が可能</li> <li>● 特にデータ更新業務は、プロセスモデルにデータモデル上のエンティティとの関連を明示</li> </ul>
情報システムも組織の一つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種役割を担う組織として、実組織だけでなく情報システムも扱う</li> </ul>
実施サイクルをトリガとして明示	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プロセスのタイミングと頻度は、重要な業務ルール</li> </ul>

### 『IPF(Information Process Flow)チャート』記述例





## 導入効果の一例：内部統制のための業務分析にPLAN-PROC



コンプライアンスへの関心の高まりから昨今、「内部統制」が話題になっています。

内部統制の実現では、業務プロセスを分析し、相互牽制上の問題点・リスクを発見することが重要になります。

その分析工程の可視化の部分で、PLAN-PROCを適用することにより、問題点やリスクがより明確に発見できるのです。

例えば、何らかの意思決定をする場合、その業務プロセスの本質パターンは「決定(入力)→確認→承認」のようにほぼ決まっています。

現状の業務プロセスを『IPFチャート』で可視化すると、問題を含む業務プロセスは、承認のステップがなかったり、不必要に多段階になっていたという本質パターンと異なる形で現れます。

あるべき業務プロセスの検討とは、本質パターンと異なる形であられた業務プロセスを見つけ出し、権限と役割の観点から「だれ」が、「どのタイミング」で、「どこまで」を実施すべきかを整理し直すことで、新規の業務プロセスモデルを作成することなのです。

『IPFチャート』では、情報の連携手順にフォーカスしてプロセスを記述するため、入出力(画面・帳票)、つまり情報を中心に組織間のやりとりが、シンプルに明示されます。これにより、組織内での処理方法や細かな違いにとらわれない適切な粒度での業務分析が可能になります。

このように「PLAN-PROC」を適用していただくことにより、広範囲業務の分析においても、効率的な実施が可能です。

業務プロセスが適切か否かは、その特性・パターンから比較的容易に判断可能ですが、問題点をもれなく発見するためには、業務で取り扱うデータをつかむことが鍵になります。例えば、意志決定とは思えない業務に、意志決定を必要とするデータ項目が含まれている…などの問題は、業務プロセスの可視化だけでは見つけることはできません。このため、業務で取り扱う情報そのものも分析することが重要になります。(「PLAN-DB」の適用)

## PLAN-PROC教育サービス

「PLAN-PROC」の教育プログラムとして、以下を用意しております。ぜひご利用ください。

開催形式	DRiオンサイト教育コース	貴社様向けに開催する教育プログラム。ご要望に応じて、日時・場所・人数などフレキシブルに対応します。 以下コースの他にアレンジを加えての実施も可能です。受講人数がまとまれば、スケールメリットにより教育コストの削減も計れます。
業務プロセスモデリングの基礎と演習(PR)		
概要	業務プロセスモデル(IPFチャート)の位置付け、モデルの構成要素と表記ルールを理解し、作成の手順を習得します。	
対象	業務分析・要件定義工程のご担当者。業務プロセスモデルの表記法および作成手順を学びたい方。	
受講内容	1. 仕事の手順とは何か 2. IPFチャートの構成要素 3. 構成要素間のいろいろな関係 4. 利用目的とIPFチャートの表記レベル 5. 基本論理組織の設定	6. IPFチャートの作成 7. 演習 8. オプション表記 9. IPFチャートを作成する単位を決める

お問合せ先:株式会社データ総研 営業担当 TEL:03-5695-1651 / E-Mail:crm@drinet.co.jp

### 株式会社データ総研 代表取締役社長 黒澤 基博

1985年創立。データ設計と標準化に特化したITコンサルティングファーム。データ中心アプローチ(DOA)のパイオニアとして知られる。

PLAN-DB®、PLAN-CODE®をはじめとする設計技法や開発方法論をベースに、わが国のリーディングカンパニー約260社を支援。

800件を超えるデータ仕様ライブラリを有する。

東京都中央区日本橋小伝馬町4-11サンコービル TEL:03-5695-1651 FAX:03-5695-1656 <http://www.drinet.co.jp>